

外国人の観光人気1位

伏見稲荷に学生熱視線



身ぶりを交えながら、外国人観光客に話しかける大学生たち
(京都市伏見区・伏見稲荷大社)

会話ツール、宿泊環境…意識調査の場

大手口コミサイトで外国人に最も人気のある観光地に選ばれた伏見稲荷大社(京都市伏見区)が、外国人観光客の意識調査のフィールドとして、大学生から熱い視線を浴びている。数年前から京都や大阪の大学が調査に入り始め、今年は少なくとも約10グループが訪れた。同大社は「境

内が新たな発見の場になれば」と歓迎している。「エクスキューズ・ミー」。

調査するのは龍大の牛尾洋也教授と学生だ。今年8月から外国人向け日本語会話支援ツールの開発のために実施。

調査を機に同大社に初めて訪れる学生もいる。同志社大4年河田遥香さん(21)は、授業で5月に外国人にインタビューした。「この機会がないと来なかったかも。きれいな鳥居に感動した」と声を弾ませた。外国人観光客の宿泊環境について聞き取った大阪商業大4年吉岡すみれさん(21)は「(神社という)最も日本らしい場所に外国人が多く、不思議な感覚」と驚いていた。

龍谷大の学生が外国人に話しかけ、アンケートに協力を求める英文を示す。2日の伏見稲荷大社。続々と鳥居をくぐる外国人は気さくに応じ、「日本人と話す時に難しいと感じる原因」などの質問に

答えた。調査するのは龍大の牛尾洋也教授と学生だ。今年8月から外国人向け日本語会話支援ツールの開発のために実施。北中米やアジアなど多様な地域の人々から聞き取った。3年の吉見彩音さん(22)は「学生の調査と伝えると関心を持ってもらえる。キャンパスの近くに国際的な場所があつてうれしい」と語る。

住民も調査内容の相談に乗るなど歓迎する。参道で神具店を営む南了仁さん(44)は「学生さんは近くの観光地に興味を持ちにくい。調査を機に関心を持ってくれれば」と話す。同大社権禰宜の志賀直祐さん(36)も「伏見稲荷は開かれた場所。いつでも調査にいらしてください」と呼びかける。(広瀬一隆)

同大社によると、大学の調査が増え始めたのは、観光口コミサイト「トリップアドバイザー」で2年連続1位になるなど、外国人に人気の観光地として知られ始めた2、3年だ。修学旅行の中高校生が調査する光景も見られるという。

調査を機に同大社に初めて訪れる学生もいる。同志社大4年河田遥香さん(21)は、授業で5月に外国人にインタビューした。「この機会がないと来なかったかも。きれいな鳥居に感動した」と声を弾ませた。外国人観光客の宿泊環境について聞き取った大阪商業大4年吉岡すみれさん(21)は「(神社という)最も日本らしい場所に外国人が多く、不思議な感覚」と驚いていた。